Japan Cornea Conference 2021
角膜カンファランス2021
第45回日本角膜学会総会　第37回日本角膜移植学会

ポスター（領域３：北野賞候補）

P54

体育スポーツ系学部卒業者におけるドライアイの有病率と危険因子

prevalence and risk factors of dry eye in Physical Education graduates

村上（むらかみ）　茂樹（しげき）[1]、河村　剛光[2]、染谷　由希[3]、鈴木　宏哉[2]、井上　賢治[4]、天野　史郎[4]、青木　和浩[2]

[1] 順天大・スポーツ健康科学部／むらかみ眼科クリニック、[2] 順天大・スポーツ健康科学部、[3] 順天大・スポトロジー研究所、[4] 医療法人社団　済安堂　井上眼科病院

≪目的≫これまで対象集団の学歴を統一したドライアイの疫学調査研究の報告は世界でも少ない。そこで演者らは、保健と体育に関する専門的な知識と実技を習得した同一大学体育スポーツ系学部の卒業者におけるドライアイ疾患（ＤＥＤ）の有病率の予測及び危険因子を評価した。≪方法≫順天堂大学スポーツ健康科学部及び体育学部の卒業生全員を対象に、ＤＥＤの診断及び危険因子を検出するためにデザインされた質問票を郵送し、郵送の返信により回答させた。調査項目として、Schaumberg らの調査票による自覚的ＤＥＤと診断的ＤＥＤについて有病率を調査した。また、危険因子として、年齢、性別、喫煙習慣、飲酒習慣、ＢＭＩ、端末画面を視る時間、ＣＬの使用について分析した。≪結果及び結論≫調査対象となる９，５０７名の内、回答解析可能であった２，０４８名（男性１，７１６、女性３３２名）について分析した。診断的ＤＥＤは、男性１，７１６名中５０名（２．９％）、女性３３２名中３１名（９．３％）であった。自覚的ＤＥＤは、男性２５４名（１４．８％）、女性１３２名（３９．８％）であった。また、危険因子として、男性ではＣＬ使用が危険因子であった。女性ではＣＬ装用と４時間以上の端末画面を視る時間であった。今後、修正可能な危険因子に対して関連する対策を講じることは体育スポーツ系学部卒業者の眼の健康やＱＯＬにプラスの影響を与え得ることが示唆された。